

暖地におけるアスパラガスの栽培に関する研究

(第2報) 播種期について

岩永 皓・後藤道徳

(宮崎県総合農業試験場)

IWANAGA, A and Goto, M.

Studies on the Cultivation of Asparagus in the Warmer Region of Japan

(II) On the sowing time

アスパラガスの栽培は一般に約1年間苗を育成してこれを翌年本圃に定植し、さらに本圃において1~2年間株を養成して、定植後2~3年日より収穫を始めるのであるが、暖地においては2年日よりの収穫が可能なることを本研究の第1報に報告した。この場合、苗の大小は定植後の生育に影響し、さらに翌年の収量に影響することが大きく、できるだけ大苗を植えることが必要とされている。このため育苗におけるは種期について1964~65年に試験を行なったのでその結果の概要を報告する。

1. 試験方法

品種はメリーワシントンを用い、1964年は3月2日より5月13日まで5回、65年には3月22日より4月24日まで4回は種した。栽植密度は12cm×12cmとし1区2m²の2連制で試験を行なった。

2. 試験結果並びに考察

試験の経過：1964年は、は種期による発芽の遅速はあったが、生育は大体良かった。8月~9月の3回の台風により葉の倒伏折損があったが、追肥その他の手入れにより生育は順調で12月下旬にいたり低温によって自然枯死した。この間においては種期の早いものでは開花を始める株もあった。1965年には発芽は大体良かったが発芽直後にハスモンヨトウの食害とスズメの害により若干の欠株を生じた、6~7月に茎枯病が発生し、8月に入って一時回復したが、9月に再び大発生し、このため葉の枯死は例年より約1ヶ月早く10月下旬となった。

発芽について：アスパラガスの発芽適温は熊沢氏によれば25~30°Cとされ、沢田氏も最適適温30°C、限界最低温度5°Cで、10°Cでも17日目で発芽始となり発芽期は35日目となっている。筆者等が行なった発芽試験においても25°Cの素焼発芽皿において8日日より発

芽始となり14

日が発芽期となった。本試験の結果でも

第1表のとおりで、3日2日のは種では

発芽期が4月

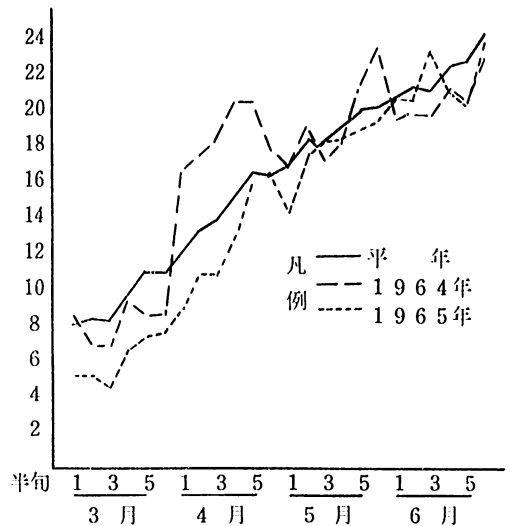
16日が発芽日

第1表 発芽調査成績

年次	は種期	発芽始	同期	同揃	良否	発芽日数	発芽期迄の温積算地温
	月日	月日	月日	月日		日	°C
一九六四年	3.2	4.12	4.16	4.26	良	45	543.2
	3.23	4.18	4.22	4.25	〃	30	495.9
	4.3	4.27	4.30	5.2	〃	26	513.9
	4.23	5.17	5.19	5.22	〃	26	478.1
	5.13	6.6	6.8	6.10	〃	26	536.8
一九六五年	3.22	4.19	4.22	4.26	良	31	324.0
	4.1	4.27	4.28	4.30	〃	27	341.7
	4.12	5.1	5.4	5.6	〃	22	318.8
	4.24	5.12	5.12	5.16	〃	18	286.1

数45日を要したが、3月23日は種では発芽日数30日て4月22日が発芽期となり、は種期が遅くなるにしたがい発芽日数は少なくなるが、発芽期はおくれている。

第1図 播種期間の地温(都城支場)



当地方の地温をみると第1図のとおりで、発芽適温の時期は6月下旬となるが、本試験の結果より3月上旬のは種でも発芽するので10°C前後が実用的は種可

能温度と考えられる。

すなわち3月中旬頃よりは種可能である。

苗の生育：苗の生育は第2表のとおりで、8月上旬までは、は種期が遅いほど草丈、莖数は劣るが、その後はその差が少なくなっている。1964年には4月上旬

第2表 苗の生育
1964年

は種期	6月19日		8月7日		12月4日		開花	
	草丈	莖数	草丈	莖数	草丈	莖数(枯莖とも)	始	株率
月日	cm	本	cm	本	cm	本	月日	%
3.2	25.5	3.2	53.9	6.7	66.0	7.5	7.29	31.5
3.23	22.4	2.7	49.9	5.9	53.3	6.5	8.12	24.7
4.3	18.8	2.8	50.1	5.4	51.5	5.6	8.18	18.3
4.23	10.8	1.1	40.9	5.3	47.3	6.4		
5.13	9.4	1.0	29.8	4.5	52.1	5.4		

第3表 苗の大小別収量

年次	は種期	苗収量(本/10m ²)					大小別比率(%)				欠株率	備考
		大苗	中苗	小苗	屑苗	計	大	中	小	屑		
	月日										%	
一九六四年	3.2	265	75	15	75	430	61.6	17.4	3.5	17.4	37.3	大苗 貯蔵根 20本以上 中苗 20~10本 小苗 10本未満
	3.23	240	170	20	115	545	44.0	31.2	3.7	21.1	21.0	
	4.3	210	140	40	190	580	36.2	24.1	6.9	32.8	15.9	
	4.23	95	265	105	95	560	17.0	47.3	18.8	17.0	18.8	
	5.13	105	180	110	110	505	20.8	35.6	21.8	21.8	26.8	
一九六五年	3.22	80	140	120	154	495	16.2	28.3	24.3	31.2	27.4	
	4.1	44	156	184	156	540	8.1	28.9	34.1	28.9	14.3	
	4.12	32	112	146	148	438	7.3	25.6	33.3	33.9	33.3	
	4.24	56	124	78	144	402	13.9	30.8	19.4	35.8	41.8	

1964年には4月3日までの種では大苗が多く小苗が少なかったが、4月23日、5月13日では中苗・小苗が多く大苗は少なくなった。65年には全般に大苗が少なかったが、3月22日まきでは中苗が多かったのに対し、4月12日、24日とおそくなるにしたがい小苗・屑苗が多くなった。65年が大苗が少ないのは茎枯病により地上部の枯死が前年より約1ヶ月以上早かったためである。大小別苗の素質を調査した結果は第4表のお

第4表 大小別苗の素質調査

大小別	草丈	生莖数	枯莖数	根長	根数	根径
	cm	本	本	cm	本	mm
大苗	63.5	1.7	4.0	25.5	32.2	3.3
中苗	38.7	1.1	3.3	22.4	15.8	2.9
小苗	23.2	1.0	2.9	19.5	8.4	2.3

1965年

は種期	8月4日		9月3日			計
	草丈	莖数	草丈	莖数	枯莖	
月日	cm	本	cm	本	本	本
3.22	43.5	6.2	58.3	6.7	1.8	8.5
4.1	48.4	5.6	65.2	7.0	3.0	10.0
4.12	39.1	4.8	53.4	6.9	1.6	8.5
4.24	28.6	4.9	46.7	7.3	1.1	8.4

までの種では発蕾・開花する株が見られた、また開花した株は雄株が多かった。1965年には茎枯病のため生育がおくれ開花は見られなかった。

苗の大小別収量：地上部が枯死した後に掘取のて貯蔵根の多少により大小別に区分して株数を調査した結果は第3表のとおりである。

りで、大苗の貯蔵根は32.2本に対し中苗・小苗は著しく少なかった。

以上の結果から、は種期は早まきほど大苗が得られるようであるが、あまり早いと発芽までに長時日を要するので得策とはいえない。しかしおそいは種では発芽日数は短かいが苗が小さいので不利である。また4月上旬までの種であれば開花する株もあり雌雄株の判別にも有利である。これらのことより当地方におけるは種の適期は露地育苗の場合は3月下旬～4月上旬と考えられる。

なお、今後は収穫期を早めるためにマルチトンネル等により地温を高め、さらに早まきして年内に定植することも考えられ検討が進められている。